

# まなびの部屋

## 海に見える図書室

4月1日オープン!! 牛窓町公民館図書室完成

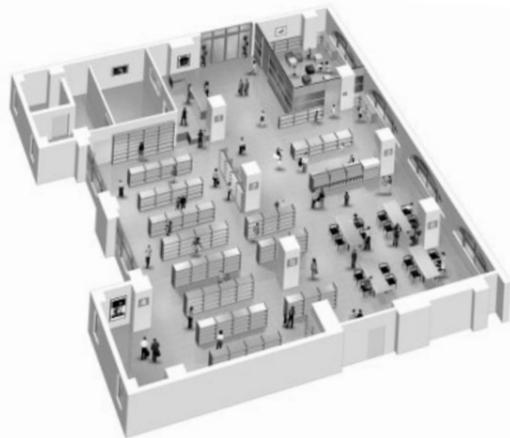
牛窓図書館の老朽化などに伴い、整備を進めていた新しい図書室がこのほど完成し、4月1日から牛窓町公民館図書室として開室します。牛窓支所の2階に移転した新たな図書室は、本の収蔵能力が約28,000冊あり、旧牛窓図書館よりやや大きくなりました。約250平方メートルある開架スペースの中には、パーティションで仕切った子ども図書室を設けていて、音を気にすることなく親子で絵



新しくなった図書室へ行って!!

本を楽しむことや小規模のおはなし会を開催することができます。

落ち着いて気持ち良く読書ができるよう、閲覧室は日当りの良い海見える南



の窓側に配置しています。

皆さんも、ぜひ新しくなった図書室に足を運んでみてはいかがでしょうか。ご来室をお待ちしています。

なお、牛窓町公民館図書室へ行くには、牛窓町公民館2階、あるいは、新設のエレベーターから渡り廊下

## 今月のおすすめ本



しばわんこ 和のお道具箱

川浦良枝…絵と文

和の心を持った柴犬こと、しばわんこやんちやな三毛猫のみけにゃんこの登場し、楽しいエピソードで和道具の魅力を語りまします。ナチュラルでスローな昔ながらの和の暮らしが見直されています。しばわんこと一緒に、お裁縫、炊事、庭仕事など暮らしの中の素敵な和道具を再発見しましょう!

を渡って行くこと

ができます。牛窓支所側からは、図書室へ行くことができますのでご了承ください。

また、牛窓図書館が牛窓町公民館図書室となることに伴い、中央公民館図書室を瀬戸内市立図書館に名称

変更します。

▽開館時間

午前9時～午後5時

※休館日は、公民館と同じく月曜日、祝日および年末年始となります。

■問い合わせ先

牛窓町公民館図書室

☎0869-34-5653

Books



センパイ!その日本語まちがってます!

植松真人…著

「役不足」って自分の力より役が上? それとも下? 意外と正しい意味を知らずに使われている日本語。人に言われて赤っ恥をかき前に知っておきたいよくある誤用を取り上げて紹介しています。正しい日本語を知っていると自信を持って話せますよ!

今月のおすすめ本は、市内各図書館・室で借りられます。

■貸し出し・問い合わせ先  
瀬戸内市立図書館 ☎0869-22-3761  
長船町公民館図書室 ☎0869-26-2501  
牛窓町公民館図書室 ☎0869-34-5653  
HP <http://lib.city.setouchi.lg.jp/>



巻の六十三

## 明治12年のコレラ流行と

### 地元医師の活躍

昨年から今年にかけて、恐れていた新型インフルエンザの流行が、ついに現実のものとなりました。流行の初期には、恐怖心もあって、少なからず混乱も起こり、改めて正しい情報を得ることの大切さを感じたことと思います。

かつて日本では、明治時代に何度かコレラの流行がありました。中でも明治12(1879)年は、日本史上最悪のコレラ大流行となった年でした。

患者数は全国で16万人以上、死者の数も10万人を超え、その感染力の強さと死亡率の高さに、人びとは恐

れおののいたのです。

中島家の「処剂録」

邑久町北島で代々医業を営んでいた中島家には、多くの医学関係資料が残されています。その中に、6代目にあたる中島哲が書き記した「処剂録」つまり患者への投薬記録があります。

明治12年の処剂録をみると、この年の患者総数は



▷処剂録の表紙(明治12年)

480人で、北島や周辺の村々はもとより、岡山や小豆島など遠方からの患者もみられます。月別の患者数では、夏場に大変多くなっていることから、まさにコレラの流行がその理由であったと考えられます。

コレラの流行と騒動

処剂録の中をみると、その名も「虎列刺水」という薬品名の記述が4カ所あります。ほかにもコレラと推測される記述があり、家族内で感染が拡大し、死者が次々と出ている様子、そして医者もさまざまな薬を用いて懸命に対処しようとしている姿がうかがえます。

消毒薬としては「石炭酸」が使われており、患者が出た所には、郡役所から石炭

酸が支給されています。

また、コレラで死亡した患者の遺体が火葬されたという記録が残っており、土葬が一般的であった当時としては、特別な措置であったと考えられます。

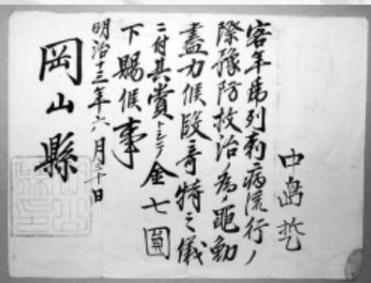
詳しい医学的知識も普及していない時代であったため、各地でさまざまな混乱も発生しました。

当時の新聞を見ると、北島村(現邑久町北島)では、道端で酔い伏せてしまった男が患者と間違えられて騒ぎになり、福谷村(現邑久町福谷)では、死者を火葬にした煙までもが感染源になると信じた村人たちが、

それを論そうとした巡査や予防委員に対して乱暴に及ぼうとした、と伝えています。『山陽新報』明治12年6月20日・7月17日。

表彰に対して質問状

明治12年に大流行したコレラによって、多くの人命が奪われました。その翌年



△中島哲あての表彰状(明治13年)

6月、中島哲は、昨年のコレラ流行にあたって予防救治に尽力したとして、岡山県から表彰を受けました。ところが、彼は同じように治療にあたりながら自分のように表彰された医師とそうでない医師がいるのは「了解シ難シ」として、邑久郡長に質問状を差し出しています。

これに対して、郡長は「自らも感染する危険を顧みない努めぶりによるもの」と返答しています。他の医師への気づかいもあったのでしょうか、いかにも明治の時代らしい反骨の気風がうかがえて、興味深いものがあります。